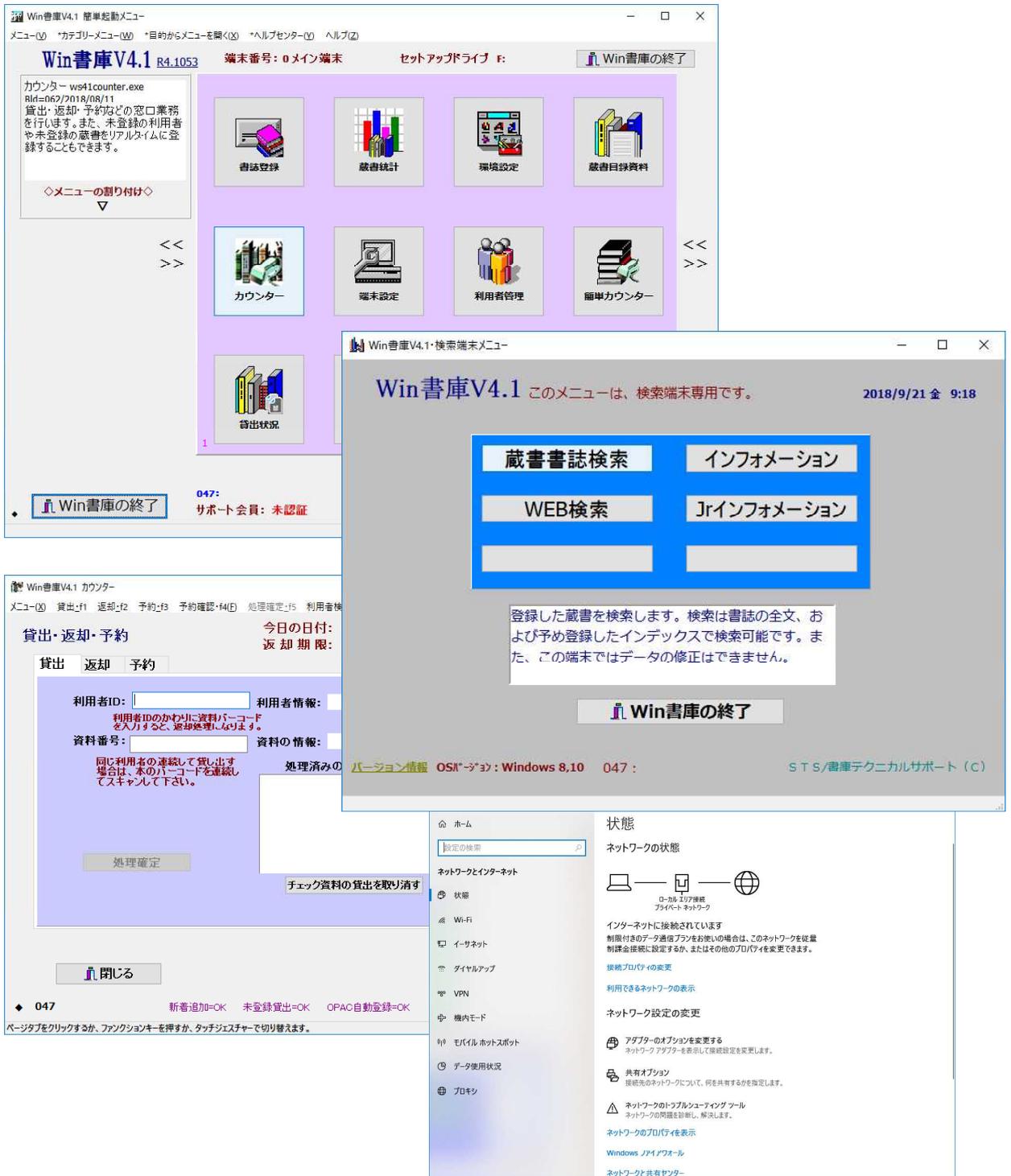


# Win書庫V4.1 ガイドブック

## ネットワーク活用編



書庫テクニカルサポート

2017.10.1 版      2018.9.20改編

## はじめに

このガイドブックでは、Win書庫V4.1の運用に必要なネットワークの基本的な知識と、ネットワークを利用した多端末運用や、本格的なサーバーOSの元でネットワーク運用を行う場合の解説を行います。ネットワークについての説明は、基本部分から行いますが、もしこのガイドブックを読んでも、十分な理解ができない場合は、Windowsネットワークに関する参考書をお読みになることを推奨します。

本書の説明は、基本的にWindows10での操作について解説します。Windowsの画面構成や操作環境は、Windows8以降大きく変更されました。この変更は、ネットワーク関連の操作にも大きく加えられており、Windows7以前のものとは、かなり違ってきます。Windows7から、Windows8/10に移行した時、多くのユーザーはとまどい、どう操作すればいいかわからなくなることも多いと思いますが、本書では、Windows8/10を使い始めて、困惑するであろうと思われる基本操作についても触れています。

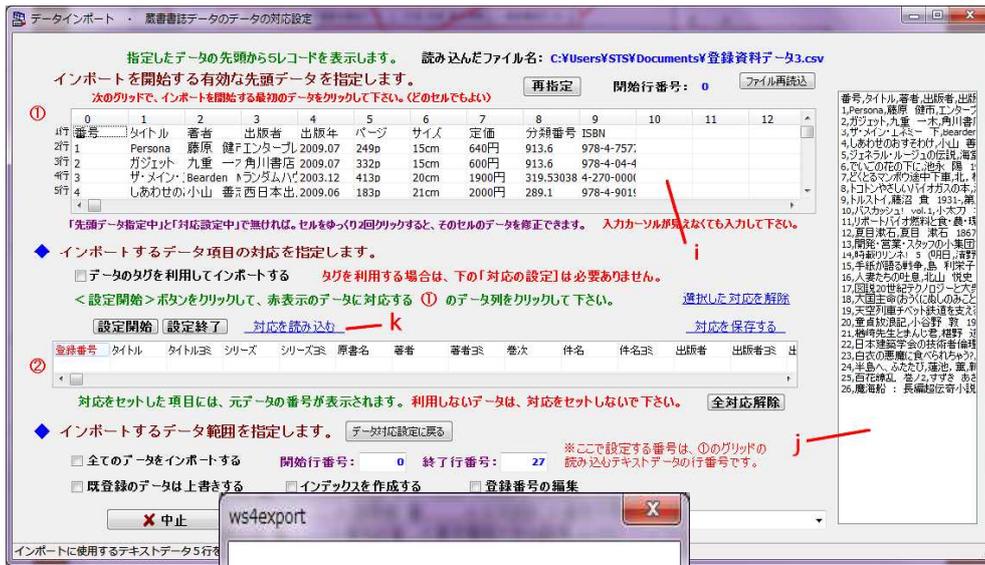
### ◇メニュー画面に表示されるWindowsコンポーネント（部品）の名称と機能



- a. 「ボタン」
- b. 「テキストボックス」  
キーボードからの入力を受け付けます。
- c. 「コンボボックス」  
▼をクリックして、リストから選択します。
- d. 「アップダウン」  
クリックして数値をアップダウンします。
- e. 「チェックボックス」  
選択項目にチェックを付けます。
- f. 「メニューバー」  
クリックすると、メニュー項目がプルダウンします。

g. 「タブページボタン」 クリックして、タブページを変更します。

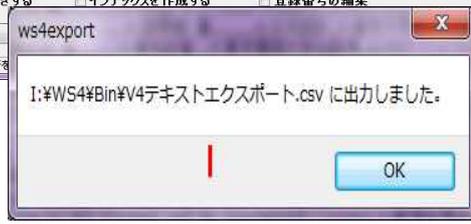
h. 「パネル」 コンポーネントをグループ化します。



i. 「グリッド」  
Excel形式の表を使って、データを表示します。

j. 「リストボックス」  
選択肢のリストを表示し、マウスでデータを選択します。

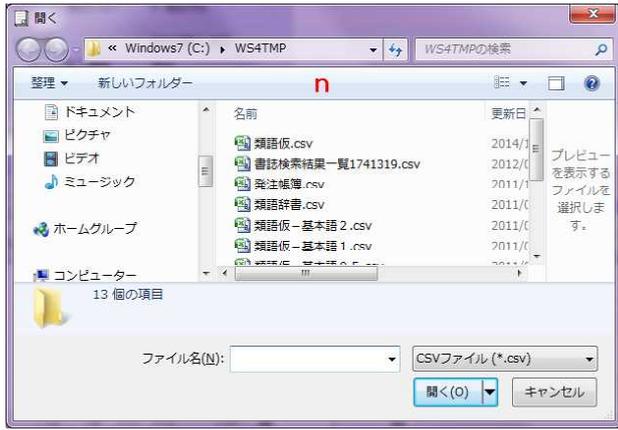
k. 「リンクラベル」  
ボタンと同様にクリックできます。



l. 「メッセージボックス」  
プログラムの実行を中断して表示されます。<OK>をクリックすると、プログラムが再開されます。



m. 「ラジオボタン」  
複数選択肢から1つだけ選択するボタン。パネルなどでグループ化された複数のラジオボタンから、クリックして1つだけ選択できます。

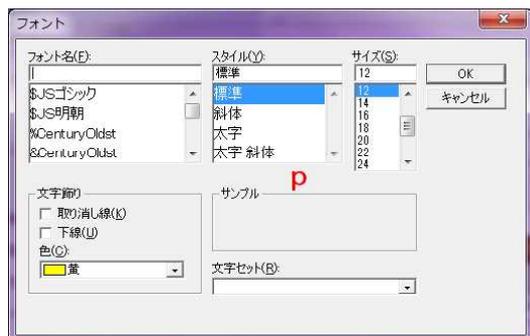


ダイアログ Windowsの特定の設定項目を処理する、比較的小さなフォーム（様々なダイアログがあります。）

n. 「ファイルダイアログ」  
ファイルの「ロード(開く)」と「セーブ(保存)」を行う2種類のダイアログがあります。



o. 「カラーダイアログ」  
色を選択するダイアログです。



p. 「フォントダイアログ」  
フォントの設定を行うダイアログです。

[目次]

第1章 ネットワークの基礎知識 .....	5
1-1 ネットワークとは .....	5
a) ケーブル接続の構成	
b) 無線LANの構成	
1-2 ネットワークの構成 .....	5
1-3 ネットワークOSの種類 .....	6
1-4 共有と共有リソース .....	7
1-5 ユーザーと共有へアクセス権 .....	12
1-6 共有の利用 .....	17



第1章 ネットワークの基礎知識

※ この章で説明するネットワークは、Windows8やWindows10などの通常のWindowsが持つネットワーク機能で、サーバーOSが持つ機能とは異なる部分があります。

1-1 ネットワークとは

一般的にネットワークとは「網」を意味しますが、コンピュータの世界では「複数のコンピュータが接続され、互いに情報交換可能な仕組み」を意味します。単にコードなどで接続された状態は、「チェーン」とよび、つながれているだけで情報交換の仕組みは含みません。電話などの通信網もネットワークですが、通常の電話ネットワークは、情報交換は行いますが、情報の流れ方のコントロールまでは行いません。(スマートフォンなどの現在の通話通信は、実際はコンピュータの情報通信システムを利用しているので、コントロール機能を持っています。その意味では、スマートフォンはコンピュータそのものです。)

コンピュータのネットワークは、情報交換と同時に情報のコントロールを行いますが、一般的な利用者がネットワークを利用する際には、情報のコントロールを意識する必要はありません。つまりネットワークを使うだけなら、電話を使うのと同じように気軽に利用できます。しかし、Win書庫を多端末運用できるようにネットワークを設定するには、どうしても情報をコントロールする仕組みについての知識が必要となります。ネットワークを利用する立場ではなく、ネットワークを管理する立場の知識が必要なのです。

Windowsでネットワークが利用できるようになったのは、Windows2000以降のバージョンからですが、私たちがWindowsを使用する場合は、ネットワーク機能は利用しないのが普通です。(使っていても、意識しない程度の機能の利用です。)しかし、Win書庫を多端末運用する場合、ネットワークの設定や管理に関する知識が必要となり、その分ハードルが高くなります。

1-2 ネットワークの構成

コンピュータ間の接続は、ケーブルで行う方法と無線LANを使用する方法があります。これまでは、デスクトップコンピュータはケーブル接続、ノートコンピュータは無線LANという場合がほとんどでしたが、最近は、デスクトップでも無線LANが標準になっているものが多くなっています。利用者にケーブル接続の手間をかけないという配慮もあるでしょうが、無線LANの高機能化とモジュールの低価格化が理由と思われる。

◇ケーブル接続と無線LANを比較した場合、次のような違いがあると考えられます。

ネットワーク接続	メリット	デメリット
ケーブル接続	・接続台数などにより通信速度が遅くなることはない	・ケーブル接続が必要 ・ケーブルの劣化やハブの故障リスクがある
無線LAN	・配線の必要がない(設置が自由) ・故障リスクが少ない	・接続台数が増えると、通信速度が遅くなる ・設置場所の電波状況により設置できない空間もある

a) ケーブル接続の構成

ケーブル接続のネットワーク規格には、100BASE規格(低速)と1000BASE規格(高速)があり、現在の多くのコンピュータは、1000BASE規格のモジュールを搭載しています。ケーブル接続の構成には、通常、ハブ(スイッチングハブ)とよばれる装置を介して、LANケーブル(イーサネットケーブル)が使われます。注意すべき点は、コンピュータのネットワーク規格/ハブ/LANケーブルの規格が同等である必要がある点です。1つでも低規格のものを使用すると、全体の通信速度は、低規格の通信速度になります。

- ◇ハブの規格
    - ・ 10/100BASE (ハブ) ※ノンスイッチングハブ
    - \* ・ 10/100BASE (スイッチングハブ)
    - \* ・ 10/100/1000BASE (スイッチングハブ) ※ギガハブ
    - ・ より高速な規格もある
  
  - ◇ケーブルの規格
    - ・ カテゴリー5 (10/100BASE対応)
    - ・ エンハンスドカテゴリー5 (10/100/1000BASE対応)
    - \* ・ カテゴリー6 (10/100/1000BASE対応)
    - ・ より高品位のケーブルもある
- \* 印は、最も多く市販されているもの

## b) 無線LANの構成

無線LANを利用する為には、情報通信を中継する「アクセスポイント」が必要です。一般的に「無線LANルーター」(親機)と呼ばれる機器を設置し、コンピュータ側にある子機との間で、無線通信を行います。最近のノートコンピュータでは、ほとんど全ての機種で無線LAN子機が組み込まれています。またデスクトップでも、無線LAN子機が組み込まれているものも発売されています。

- ◇無線LANの規格
  - ・ 11 a (5G帯) 高速、電波干渉に強い (現在最も普及)
  - ・ 11 b (2.4G帯) 古い規格/極低速、電波干渉に弱い
  - ・ 11 g (2.4G帯) 低速、電波干渉に弱い
  - ・ 11 n (2.4G帯/5G帯) 高速
  - ・ 11ac (5G帯) 最新規格/最高速

## ◇無線LANを利用する上での注意

無線LANは電波を使用する関係上、セキュリティの設定が重要です。セキュリティが甘いと、ネットワークの安全は保てません。無線LANのセキュリティには、主に次の3種類の設定があります。

- |                                  |              |
|----------------------------------|--------------|
| ・ SSID (Service Set ID) の設定      | 親機を識別するためのID |
| ・ MAC (Media Access Control) の設定 | 接続可能な子機を限定する |
| ・ 暗号化方式の設定                       | 通信内容自体を保護する  |

通常、図書館が無線LANルーター(親機)を設置することはないと思いますが、設置する場合は、上記設定は必ず行うようにして下さい。

※ 設定方法は、ルーターの種類により異なります。お使いの機種に添付されたマニュアルをご覧ください。

## 1-3 ネットワークOSの種類

Windowsには、通常私たちが使用する「Windows OS」(Windows10やWindows7など)と、ネットワークを運用する為の「Windows Server OS」(Windows Server2012など)があります。これらのWindowsは、どちらもネットワーク機能を有しますが、Server OSの方が格段に強力な機能を持ちます。以下に重要な相違点を示します。

### ◇Windows OS のネットワーク機能

- ・ 同時接続できるのは最大20ユーザー
  - ※ 接続ユーザーが増えると、アクセス速度が落ちるので、実用的には5ユーザー程度まで)
- ・ 接続するユーザーに対するアクセス権のコントロールは限定的

## ◇Windows Server OS のネットワーク機能

- ・同時接続できるユーザー数は無制限
    - ※ 接続ユーザーが増えても、アクセス速度はほとんど変わらない
  - ・接続するユーザーやファイルに対するアクセス権のコントロールが厳密
- ※ Server OSは、ネットワークの管理に特化したOSです。上記比較以外にもServer OS には、様々な機能があります。

### 1-4 共有と共有リソース

ネットワークで接続されたコンピュータで、ファイルを提供する側のコンピュータを「サーバー」、提供されたファイルを利用する側のコンピュータを「クライアント」と言います。また、サーバーが、ファイルなど（注）を提供することを「共有」、提供するファイルなどのことを「共有リソース（共有資源）」とよびます。

注：共有できるのは、ドライブ・フォルダー・ファイルなどです。

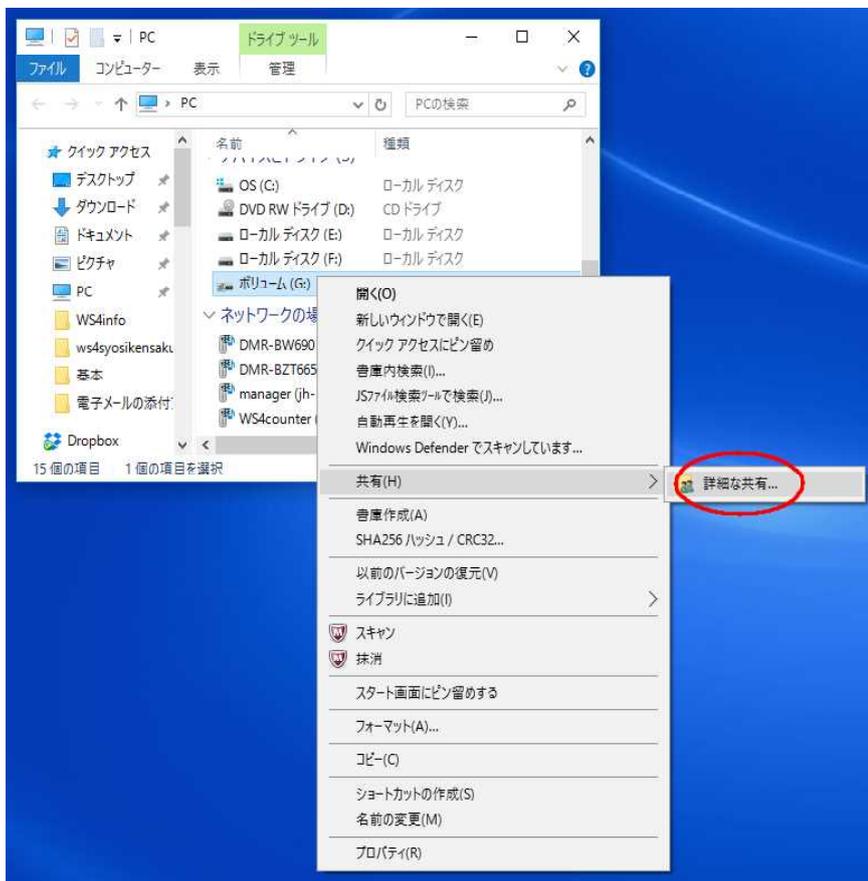
## ◇Windows10での共有の設定（ドライブG：を書庫運用の為に共有する場合）

注意：Windowsのバージョンにより、以下の手順で示す画面構成が変わる場合があります。

- ① メイン端末の「コンピュータ」（マイコンピュータ）を開きます。  
※共有を設定するのは、メイン端末です。
- ② Win書庫データをセットアップしたドライブを、マウス右クリックします。  
注：WS41/WSYOKODAT/WSYOKOGYO/WSYOKOIDX などのフォルダーがあるドライブ

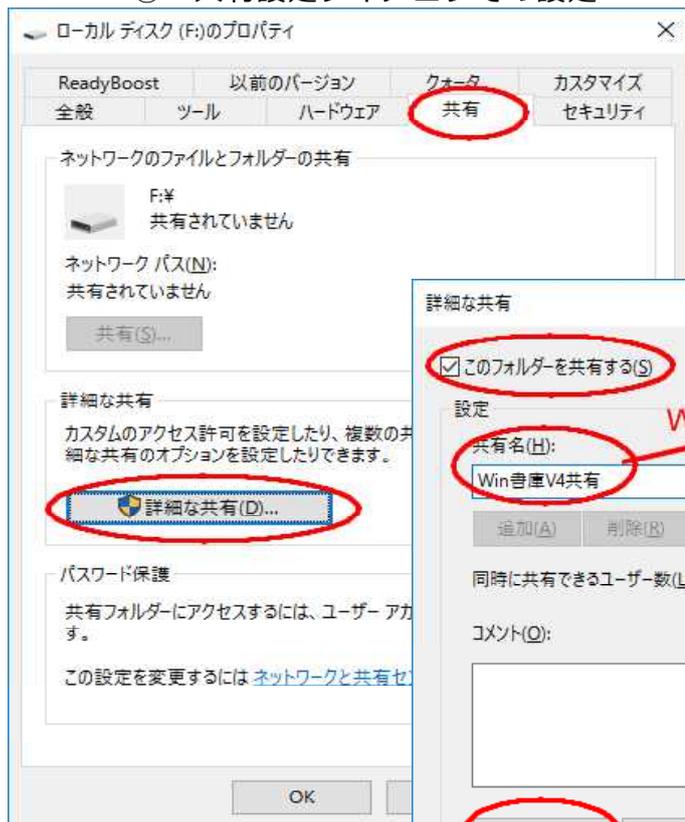
注意：書庫の多端末運用の為に共有場所は、フォルダーではなくドライブである点に注意して下さい。

- ③ 右クリックメニューから、<共有> <詳細な共有> を選びます。



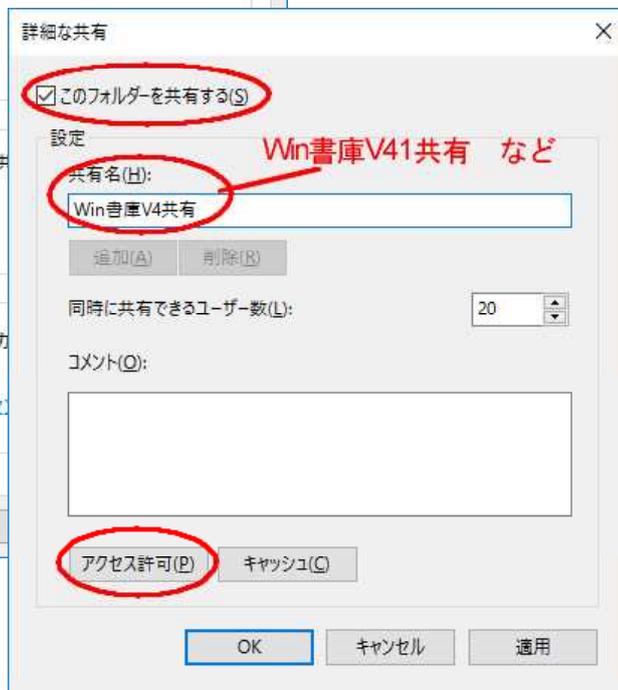
※「共有」にマウスカーソルを合わせると、「詳細な共有」が展開されるので、クリックして下さい。

④ 共有設定ダイアログでの設定



タブ表示を「共有」ページに切り替えます。

左の画面で「<詳細な共有>」ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



⑤ 「このフォルダーを共有する」にチェックを付けます。

※実際に共有するのは、フォルダーではなくドライブですが、表示はフォルダーになっていますが、問題はありません。

⑥ 「共有名」に、分かりやすい名前を入力して下さい。

共有名は、SYOKOV41 や Win書庫V41共有 など、書庫を運用する共有であることが分かるような名前が適当です。

⑦ <アクセス許可> ボタンをクリックして、「アクセス許可」設定ダイアログを表示させます。

**重要：** 共有するドライブに対して設定する「アクセス権」は、Win書庫を安全に運用する為に重要です。標準では、「Everyone」というユーザー（単語のとおり、誰でも/全てのWindowsログオンユーザーのこと）のみが表示されますが、Everyoneでは、ログオンユーザーを区別して、異なるアクセス権で書庫を起動することができません。書庫運用の安全性を高める為にも、書庫端末の運用目的毎に、異なるアクセス権を持ったユーザーでログオンできるようにするべきです。

[ユーザー名] [アクセス権]

例： メイン端末を起動するユーザー(注)・・・ WS41main      フルコントロール  
 カウンター端末を起動するユーザー・・・ WS41counter      変更  
 検索端末を起動するユーザー…………… WS41kensaku      読み込みのみ

注：Windows OS (Windows10など) での多端末運用では、メイン端末=サーバーとなります。従って、メイン端末をネットワークから起動することはないので、メイン端末を起動するユーザー (WS41main) は必要ありません。しかし、Server OSを使用する場合、サーバーは隔離されたデータ保存場所となるので、メイン端末もネットワークから起動することになり、メイン端末を起動するユーザーが必要となります。

※ このマニュアルの画像では、共有名などのバージョン部分は「V4」と表示された部分が  
多くありますが、この部分は「V41」と読み替えて下さい。

ユーザーに許可する権限：

フルコントロール……全ての操作を許可します。（一般的には、Evryoneには付与しません。）

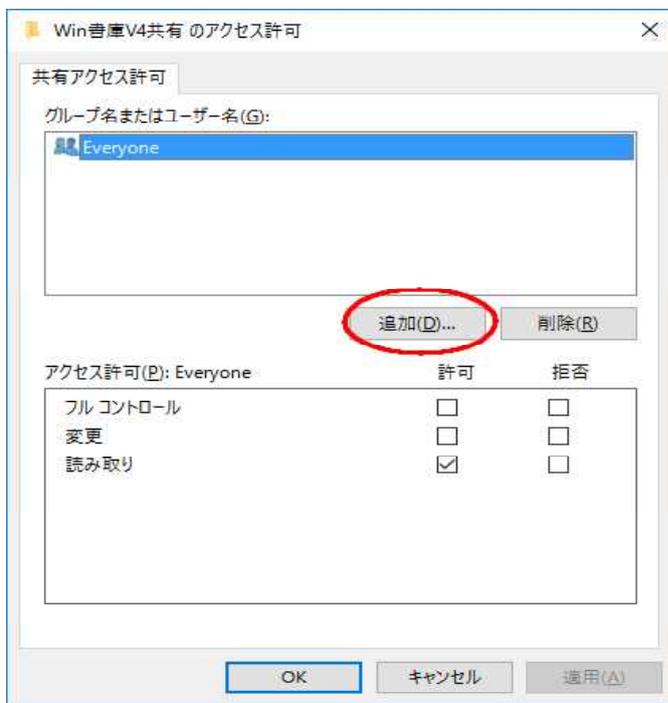
変更 ……………指定したドライブ内のデータやファイルの変更が可能になります。書庫V4のほとんどのメニューは、「変更」が許可されていないと正しく動作しません。

読み取り……………ファイルやデータを参照することだけを許可します。「検索」のみを行う端末では、読み取りのみで運用可能です。

ここでは、既に **WS41main/WS41counter/WS41kensaku** がログオンユーザーとして追加されている場合の例で説明します。

※ユーザーの作成は、「1-5 ユーザーと共有へアクセス権」を参照)

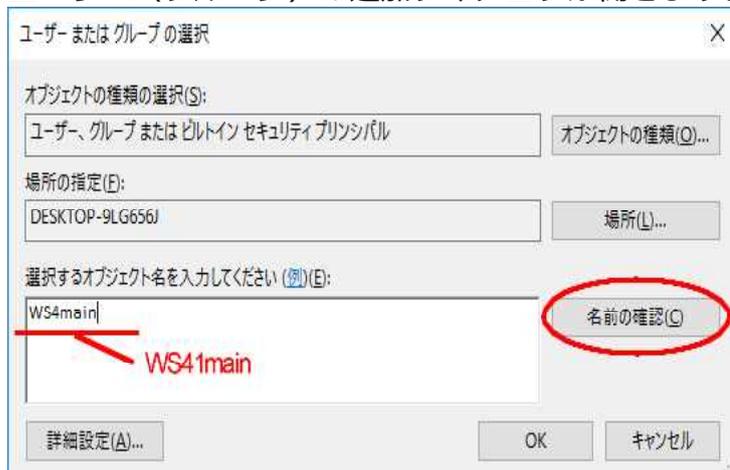
⑨「共有アクセス許可」ダイアログが開くと、初期状態では Everyone がユーザーリストに表示されます。



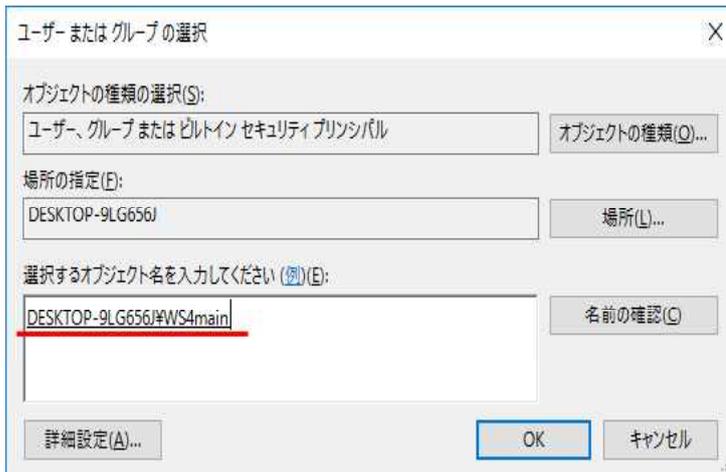
最初に共有を設定する場合は、「グループ名またはユーザー名」のリストには、Everyone のみが表示されます。

<追加> ボタンをクリック

⑩ユーザー（グループ）の追加ダイアログが開きます。



「選択するオブジェクト名を入力してください」に、追加するユーザー名 左の画面では WS41main を入力し、<名前の確認> をクリックします。



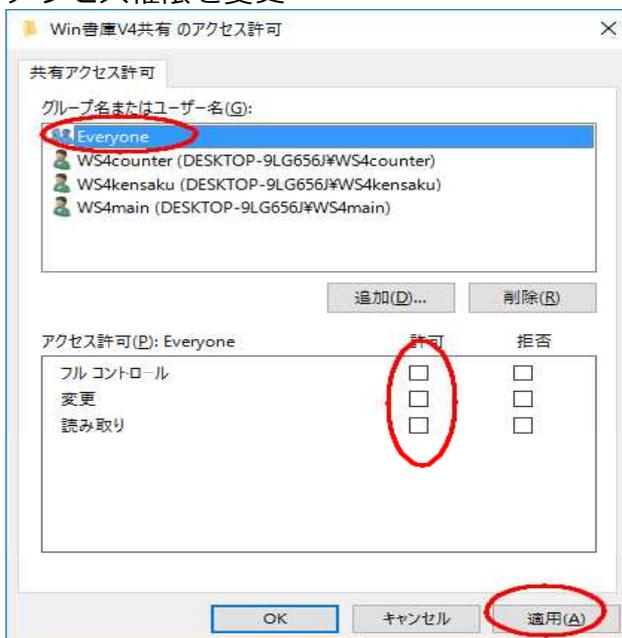
ユーザー名が検索され、コンピュータ名とユーザー名のフルネームに表示が変わります。

※入力したユーザー名が登録されていない場合は、作業は継続できません。

以上で WS41main が追加されます。

以上の手順を繰り返して、ユーザー WS41counter/WS41kensaku を追加します。

### ⑨ アクセス権限を変更

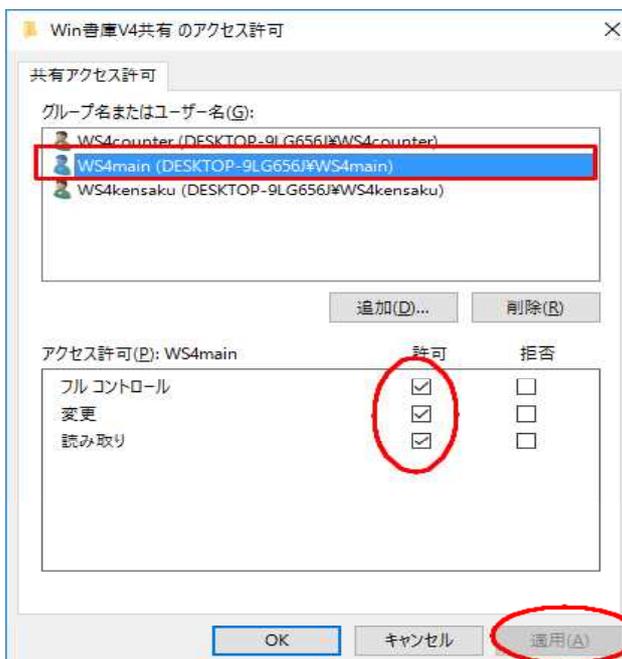


Everyone がアクセス権を持つと、全てのユーザーに適用され、「読み取り」が許可されます。指定したユーザーのみがWin書庫を起動可能にするには、Everyone の権限を削除しておく方がセキュリティ上安全です。

**権限を変更するユーザーを選択し、「アクセス許可」の「許可」欄のチェックを変更して、<適用> ボタンをクリックします。**

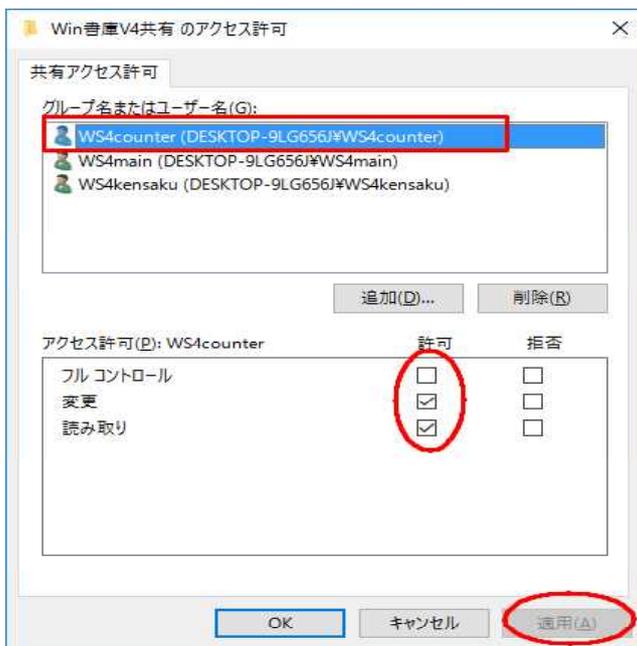
ここでは、Everyone を選択して、全てのチェックを外し、<適用>をクリックして下さい。

権限を全て失った Everyone は、一覧から表示されなくなります。

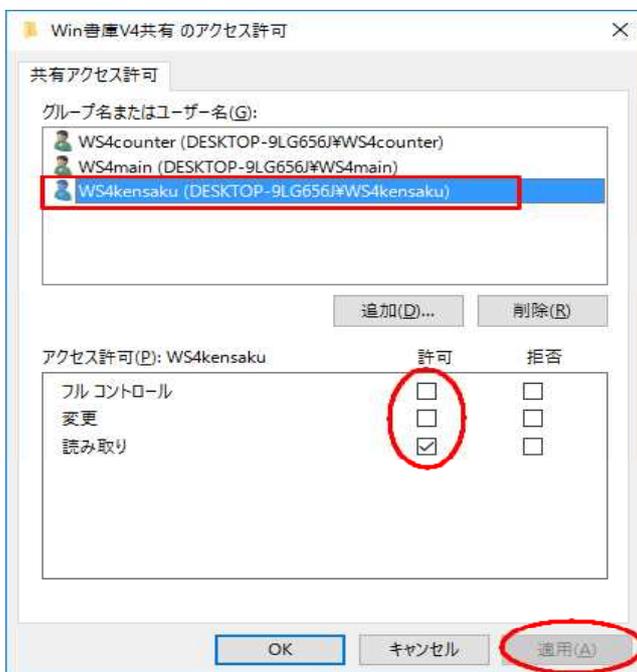


WS41main を選択し、全ての権限にチェックを付け、<適用>をクリックして下さい。

**注：囲み記事で説明しましたが、Server OS 運用以外では、メイン端末を起動する為のこのユーザーは不要です。**



WS4counter を選択し、変更と読み取りにチェックを付け、<適用>をクリックして下さい。



WS4kensaku を選択し、読み取りのみにチェックを付け、<適用>をクリックして下さい。

以上で、メイン端末での共有設定は完了ですので、開いたダイアログは、全て<OK>をクリックして閉じて下さい。

ドライブに共有を設定すると、ドライブ一覧画面のアイコンに「共有マーク」が付きます。



左のアイコンは、ドライブ G : に、共有を設定した場合です。

※ 共有マークは、Windowsのバージョンにより異なります。

知識 : 「共有」とは、あるコンピュータのドライブやフォルダー、ファイルを、ネットワークに繋がった他のコンピュータに使用させることを言います。共有されたドライブやフォルダーを、「共有リソース (共有資源)」と言います。ドライブやフォルダー、ファイル以外にも、プリンターなど、サーバーに接続されている機器にも共有可能なものがあります。

## 1-5 ユーザーと共有へのアクセス権

「ユーザー」という概念は、ソフト毎に異なる対象を示します。たとえば、Win書庫にもユーザーがありますが、Win書庫というソフトの中だけのユーザーです。同様に、Windowsにもユーザーがあります。Windowsにログオンしたり、Windowsを操作するユーザーで、ログオンユーザーともいいます。(以降では、Windowsユーザーのことをログオンユーザーと表記します。)一般的に、「ユーザーの名前」と「パスワード」および「権限」のセットを「アカウント」と呼びます。

実はWindows8の頃から、マイクロソフト社は「マイクロソフトアカウント」という新しい形のアカウントを提供し始めました。利用者をマイクロソフト製品に囲い込むための戦略でしょうが、おかげで、これまで比較的分かりやすかったアカウントの概念が、一気に複雑になってしまいました。マイクロソフトアカウントのユーザー名は、通常は利用者のアウトLOOKメールアドレスが使われ、Windows標準のメールソフト「アウトLOOK」と一体的に活用されます。このことも、状況を複雑にする要因になっています。

Windows10では、初期セットアップ時にデフォルトで作成されるアカウントは、マイクロソフトアカウントです。以前のWindowsで作成されるアカウント(ローカルアカウントとよびます)は、意図的に作成する必要があります。このガイドブックでのユーザーという記述は、全てローカルアカウントを意味しますのでご注意ください。

共有リソースは、ログオンユーザー毎にアクセス権を設定してアクセス可能になります。通常の共有へのアクセス権には、次の3種類があります。

- ・フルコントロール
- ・変更
- ・読み取り

「フルコントロール」は、全ての操作が可能な権限なので、セキュリティの観点から、通常、一般ユーザーには与えません。Win書庫のほとんどのメニューは、データ更新を伴うので、「変更」の権限が与えられたユーザーでなければ操作できません。しかし、{書誌検索}や{インフォメーション}など一部のメニューは、データを読み取るだけの処理なので、「読み取り」の権限があれば操作できます。

Win書庫を多端末運用する場合、メイン端末は「フルコントロール」(Server OSを使用する場合のみ必要)、カウンター端末は「変更」、検索端末は「読み取り」として運用することが、セキュリティ上安全です。従って、共有にアクセスする為に、3種類のログオンユーザーを作成して、異なるアクセス権を設定する必要があります。

### a) Windows10でのローカルアカウント作成

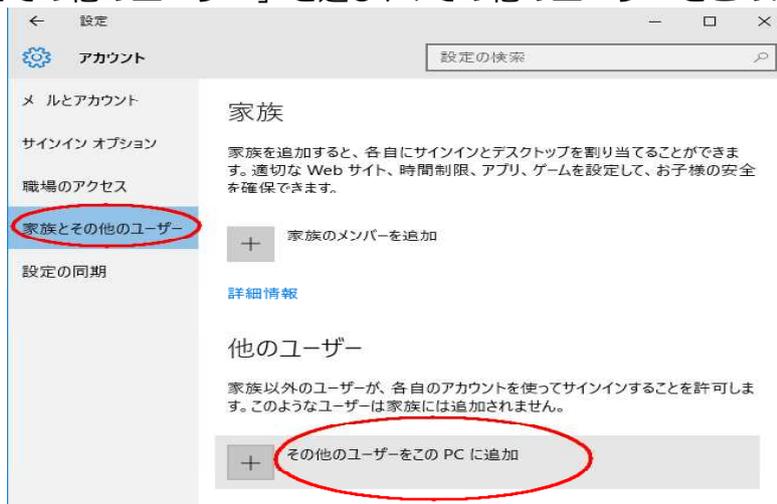
#### ◇ユーザーの追加

この項目では、カウンター端末を起動する為のローカルユーザーを作成する手順を説明します。カウンター端末では、主に{カウンター}や{簡単カウンター}を利用するので、「変更」と「読み取り」のアクセス権が必要です。

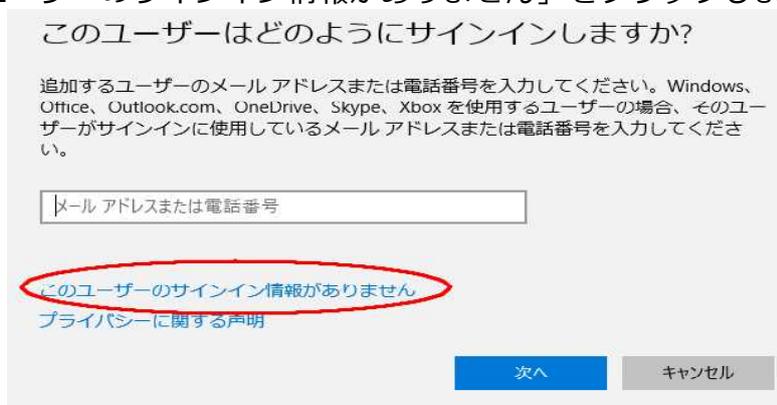
#### ① <スタートボタン>をクリックし、「設定」>「アカウント」を選ぶ。



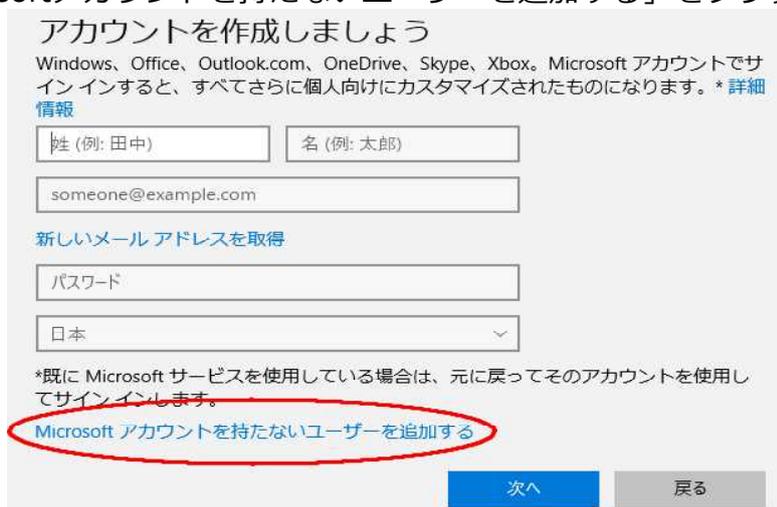
② 「家族とその他のユーザー」を選び、「その他のユーザーをこのPCに追加」を選ぶ。



③ 「このユーザーのサインイン情報がありません」をクリックします。



④ 「Microsoft アカウントを持たないユーザーを追加する」をクリックします。



知識：ユーザー名とパスワード ※この組み合わせを「アカウント」と言います。  
コンピュータを使用する場合、いろいろな場面で「ユーザー名」と「パスワード」の入力が要求されることがあります。多くの利用者は、自分の名前と誕生日などを組み合わせて使用することが多いようですが、これらの情報は、簡単にネット上に流出する可能性があります。自分のプライバシー情報に関連したアカウントは安全ではありません。特に「パスワード」は、本質的に隠すべき情報ですから、十分注意して作成する必要があります。一般的には、アルファベットと数字を組み合わせ、8文字以上が推奨されています。また、最低でも半年毎に変更することも推奨されています。

⑤必要項目を全て入力し、〈次へ〉ボタンをクリックします。

### この PC 用のアカウントの作成

パスワードを使用する場合は、覚えやすく、他人からは推測されにくいパスワードを選んでください。

この PC を使うのはだれですか？

WS4counter

パスワードの安全性を高めてください。

●●●●●●

●●●●●●

natuyasumi

戻る(B)

次へ(N)

パスワードは、半角英数字の組み合わせで設定して下さい。

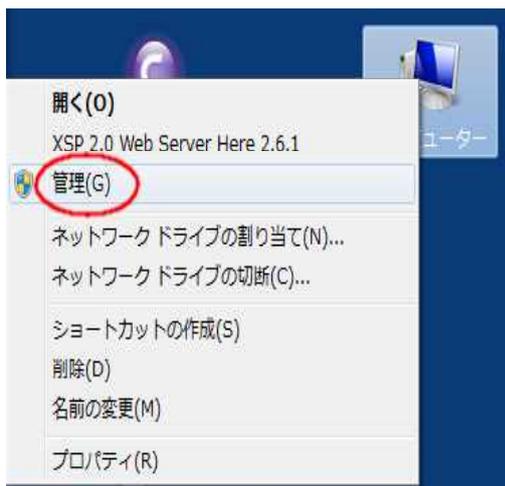
〈次へ〉をクリックすると、アカウントが作成されます。

多くのユーザーも、同様の手順で追加して下さい。

### b) Windows7でのローカルアカウント作成

Windows7以前のユーザー追加手順は分かりやすく単純です。ここでは、Win書庫を多端末運用する時、クライアント機がWindows7の場合を想定して、メイン端末（サーバー機）に作成したユーザーと同じユーザーを作成する手順を示します。

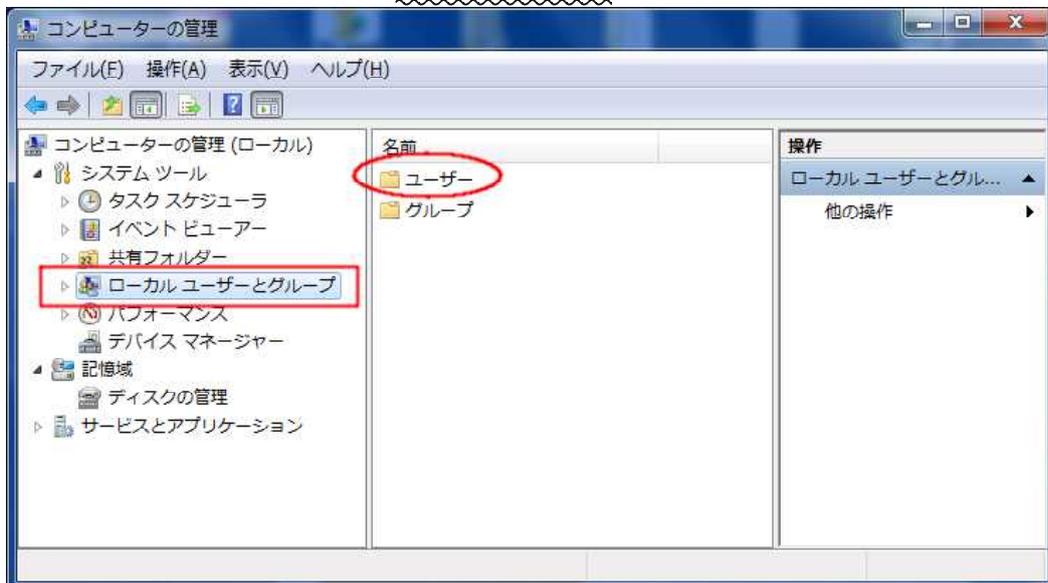
①デスクトップのコンピュータ（マイコンピュータ）アイコンを、マウス右クリックする



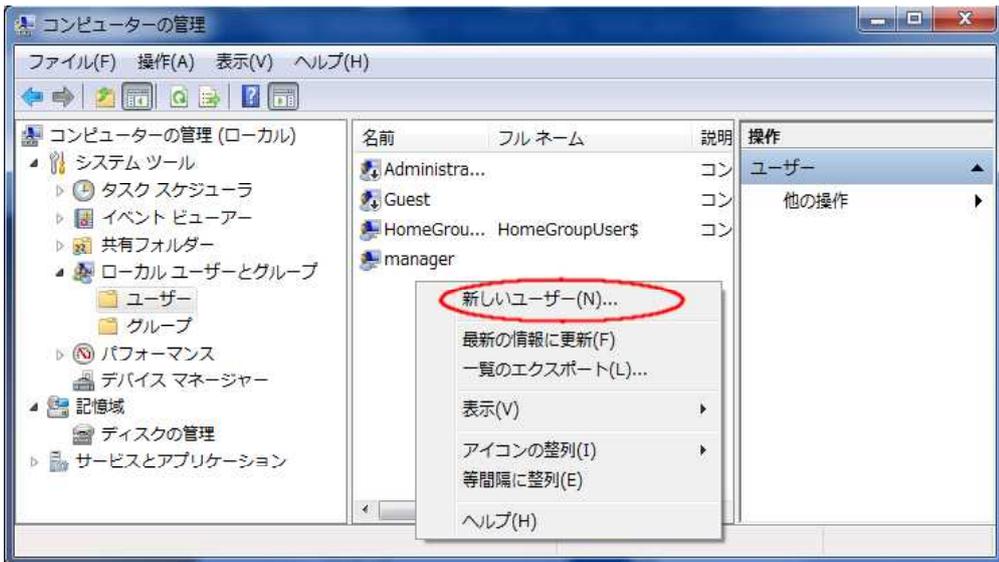
「管理」をクリックします。

※ デスクトップにコンピュータのアイコンが無い場合は、スタートボタンをクリックし、表示されるコンピュータをマウス右クリックして下さい。

②管理ダイアログから、「ローカルユーザーとグループ」をクリックし、さらに「ユーザー」をダブルクリックします。

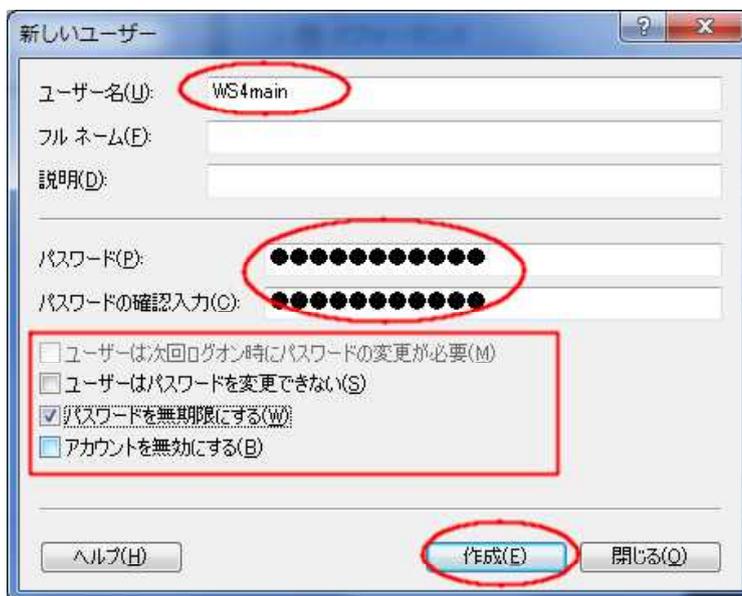


③中央のプレーン（名前／フルネーム／…）の空白領域で、マウス右クリックする。



表示されるメニューから、「新しいユーザー」を選択します。

④「ユーザー名」「パスワード」と「チェックボックスの設定」を行います。

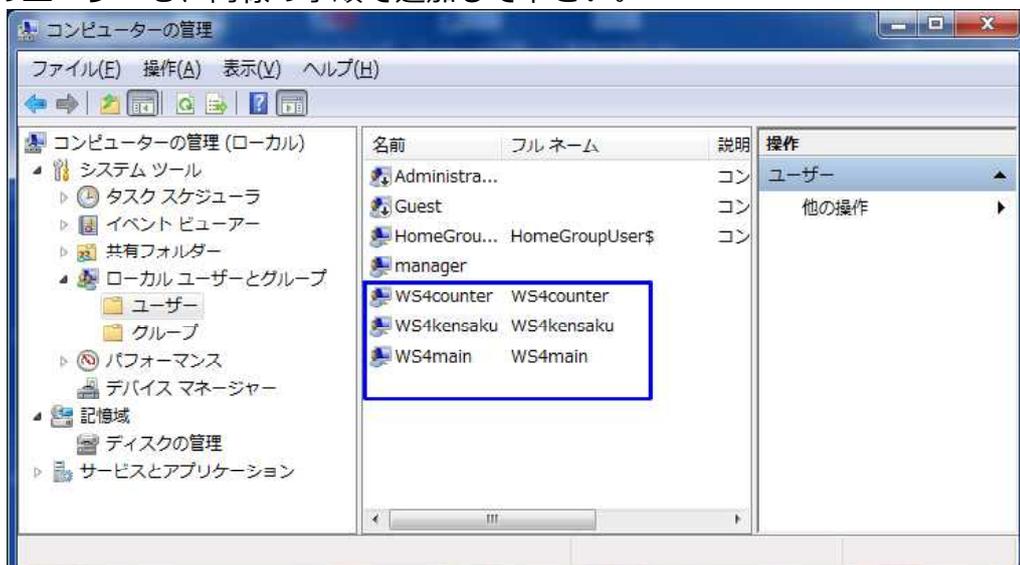


ユーザー名は、メイン端末で作成したユーザー名と同じ。

パスワードも、メイン端末で登録したユーザーと同じものを入力します。

チェックボックスは、「パスワードを無期限にする」だけにチェックを付けます。

他のユーザーも、同様の手順で追加して下さい。



ユーザーリストに、多端末運用の為の3つのユーザーが追加された状態

## 参考：ユーザーの種類

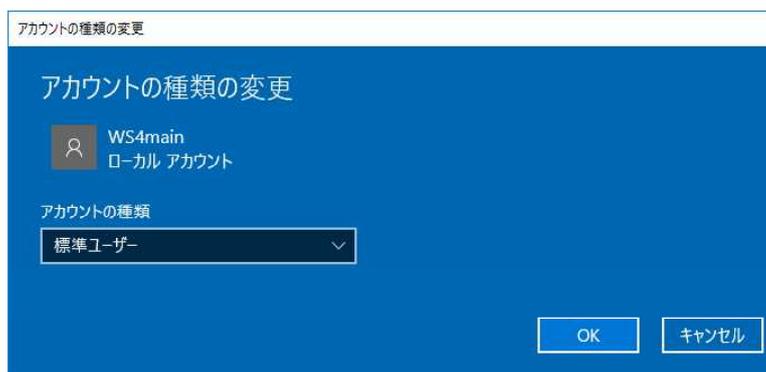
作成したユーザーは、Windowsに対して制限された操作権を持つ「標準ユーザー」です。書庫を運用するだけのユーザーなら、標準ユーザーで問題ありませんが、Windowsに対するより高度な操作を行うには、「管理者」の権限を持つ必要があります。

- a) で作成したWS41main というユーザーに管理者の権限を与えるには次の手順を行います。(書庫運用だけなら、管理者権限は不要ですが、メイン端末では、コンピュータそのものを管理する必要もある為、WS41mainユーザーには、管理権限を付与します。)

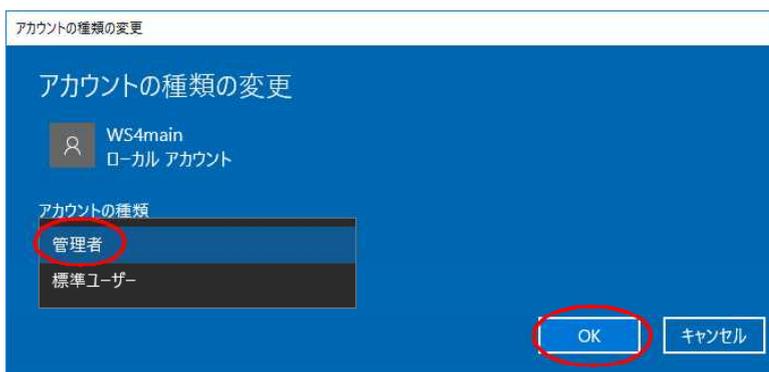
- ① スタートボタン> 設定> アカウントの手順で、「アカウント管理ダイアログ」を表示



- ② 「アカウントの種類の変更」ダイアログで、「アカウントの種類」リストを選択



- ③ 「管理者」を選択して、<OK> ボタンをクリック



<OK>ボタンをクリックすると、WS41main は管理者ユーザーとなります。

## 1-6 共有の利用

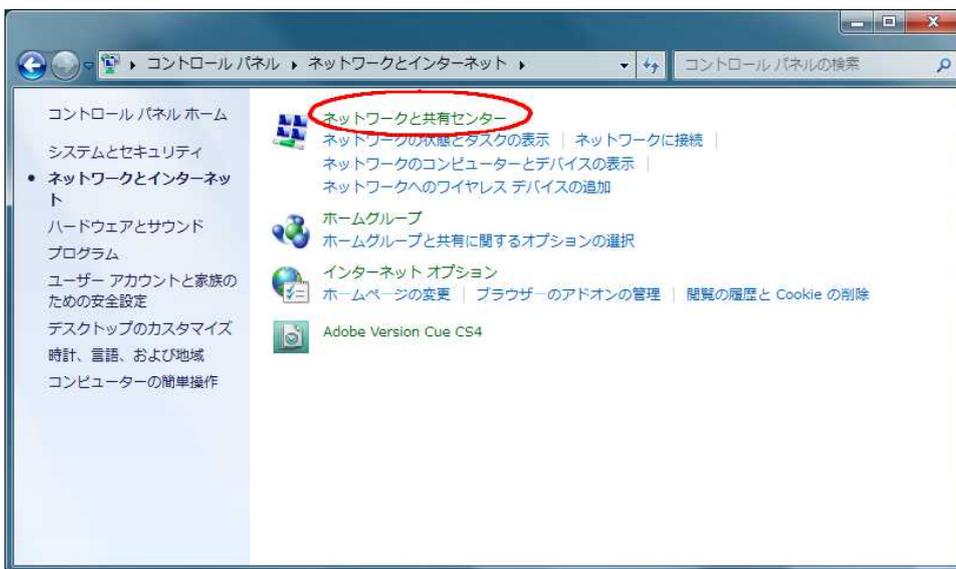
メイン端末での共有設定や、共有リソースを利用するユーザーアカウントの登録が完了すれば、いよいよサブ端末（クライアント機／カウンター機や検索機）から、メイン端末に接続して共有リソースを利用する為の操作を行います。

以下の操作は、メイン端末ではなくサブ端末で行ってください。（メイン端末が起動している必要があります。）（画面は、Windows7での手順）

### ◇共有の詳細な設定を行う

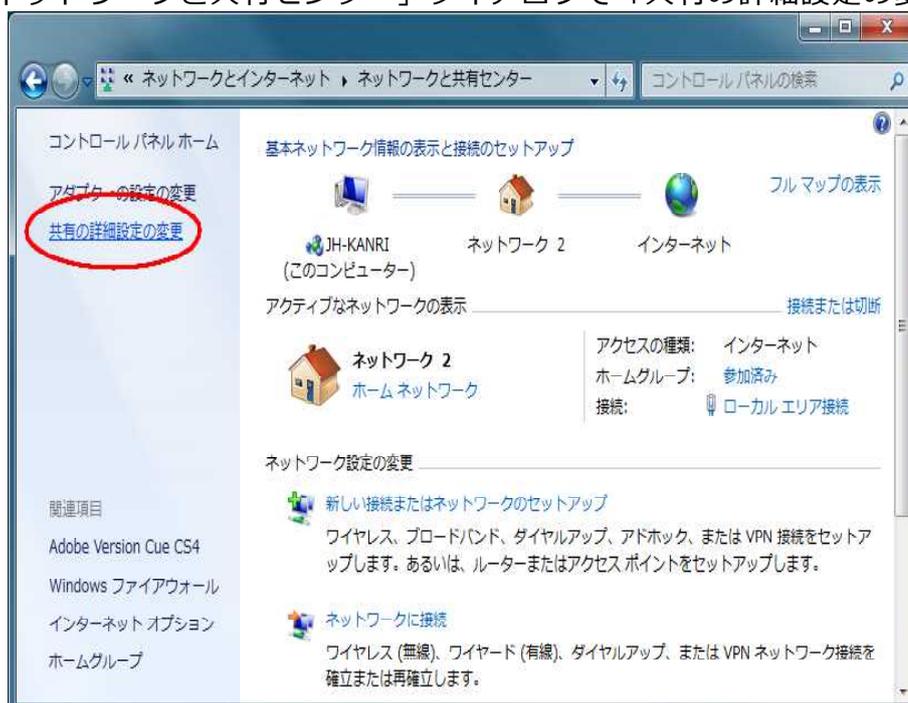
ネットワーク接続する利用者毎に、最初のログオン時に共有利用の為の設定が必要です。ここでは、ユーザー WS41counter でログオンした場合の手順を示します。

- ① スタートボタン> コントロールパネル> 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークとインターネット」ダイアログを表示させます。

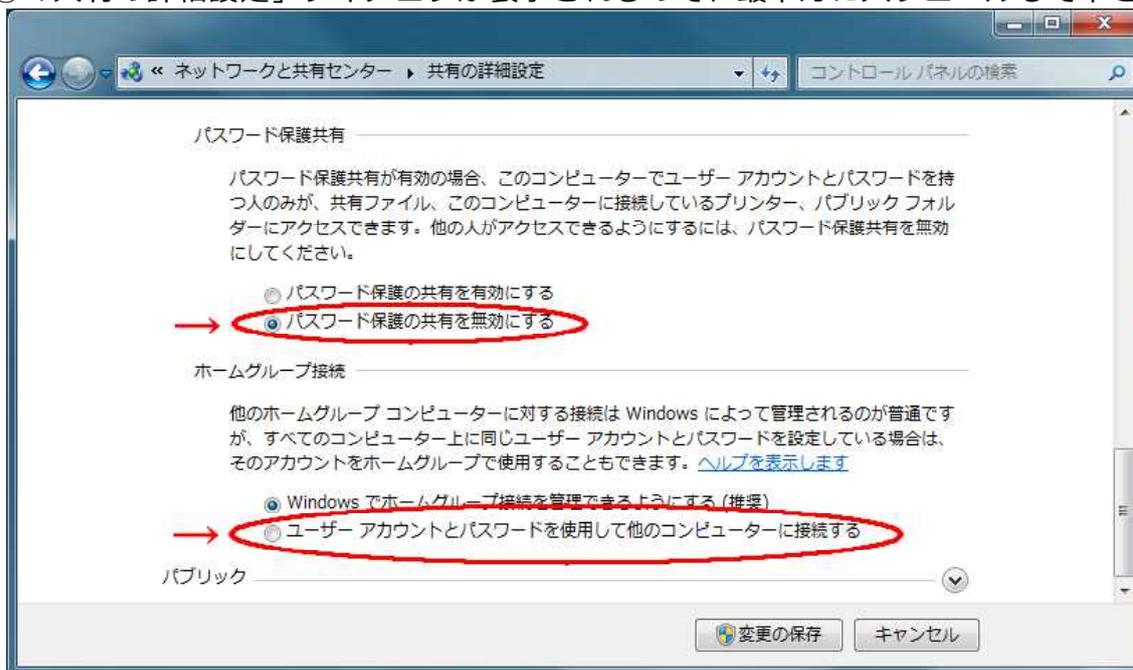


「ネットワークと共有センター」をクリックします。

- ② 「ネットワークと共有センター」ダイアログで「共有の詳細設定の変更」をクリック



③ 「共有の詳細設定」ダイアログが表示されるので、最下方にスクロールして下さい。



パスワード保護共有・・・「パスワード保護の共有を無効にする」にチェック

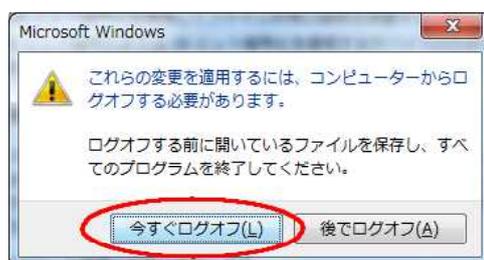
ホームグループ接続・・・「ユーザーアカウントとパスワードを使用して他のコンピュータに接続する」にチェック

2カ所のチェックを確認して、＜変更の保存＞をクリックして下さい。

「ユーザーアカウントの制御」ダイアログが開き、管理アカウントのパスワード入力が要求されるので、正しいパスワードを入力して下さい。

注意：このときログオンしたユーザーのパスワードではありません。  
ダイアログに表示されたユーザ-のパスワードです。

パスワード認証が成功すると、再ログオンの要求があるので、ログオフして下さい。



以上の設定を一度行くと、ユーザー WS41counter でログオンすると、メイン端末にインストールされたWin書庫V4の共有に設定された「WS41counterのアクセス権限」に従って、書庫が起動できるようになります。

以上の設定は、あくまでもユーザー WS41counter に対するもので、他のユーザーについても、同様の手順で、共有への接続方法の設定を行って下さい。

◇以降の作業

ユーザー WS41kensaku でログオンして、同様に設定を行う。

必要に応じて、ユーザー WS41main でログオンして、同様に設定を行う。

◇書庫を起動する

設定が完了した端末からWin書庫V4.1を初めて起動すると、「端末設定データ (C:ドライブに作成される設定ファイル)」が存在しない為、最初に【端末設定】メニューが起動します。

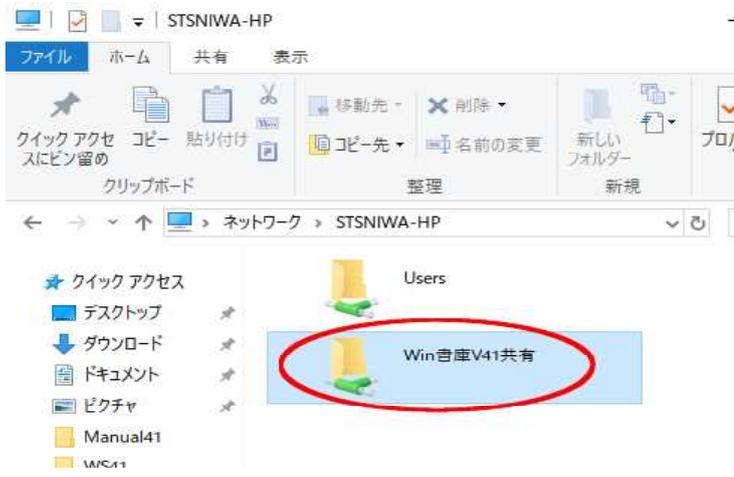
以下は、Windows10を端末として起動する場合の画面例です。

- ①多端末運用の為のユーザーでログオンします。
- ②「ネットワーク」を開きます。 ※ デスクトップに「ネットワーク」が無い場合は、「コンピュータ」を開き、左サイドメニューの下方にある「ネットワーク」をクリックします。



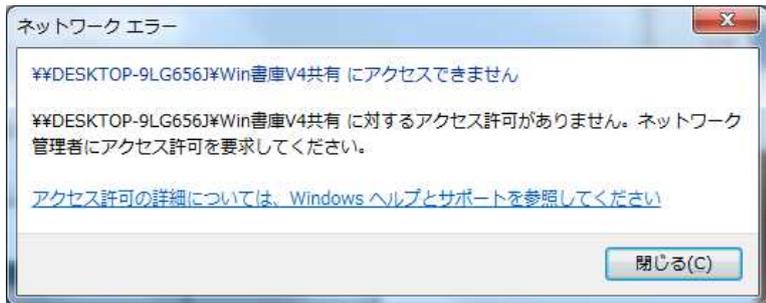
書庫をインストールしたコンピュータをダブルクリックして開きます。

- ③選択したコンピュータの共有リソースが表示されます。

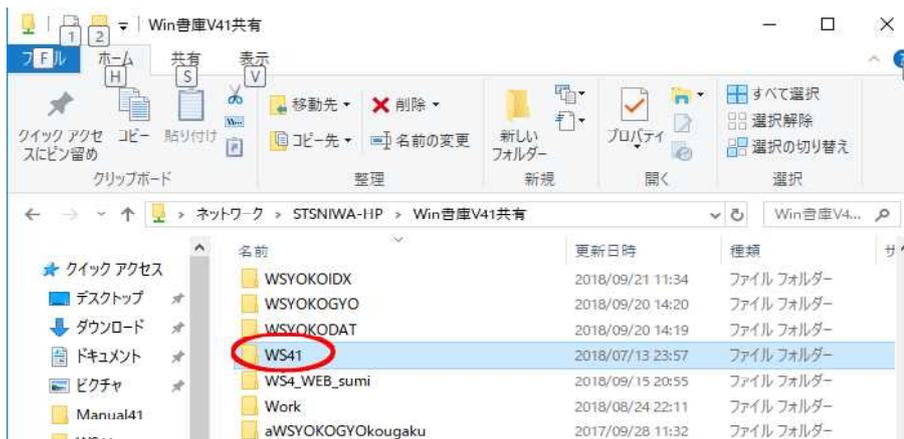


Wins書庫V41の共有リソースをダブルクリックします。

注意：共有リソースに対するアクセス許可がない場合は、次のエラーダイアログが表示されます。この表示が出る場合は、前項の「共有の詳細な設定を行う」に従って、アクセスできるように設定して下さい。

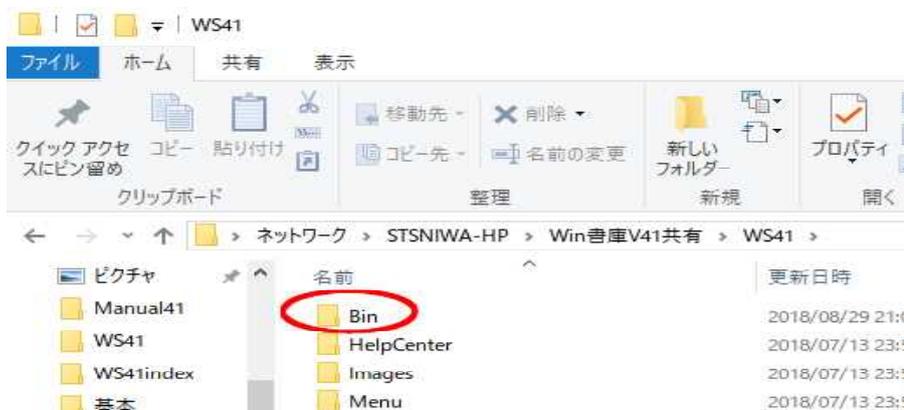


④メイン端末の書庫ドライブが表示されます。



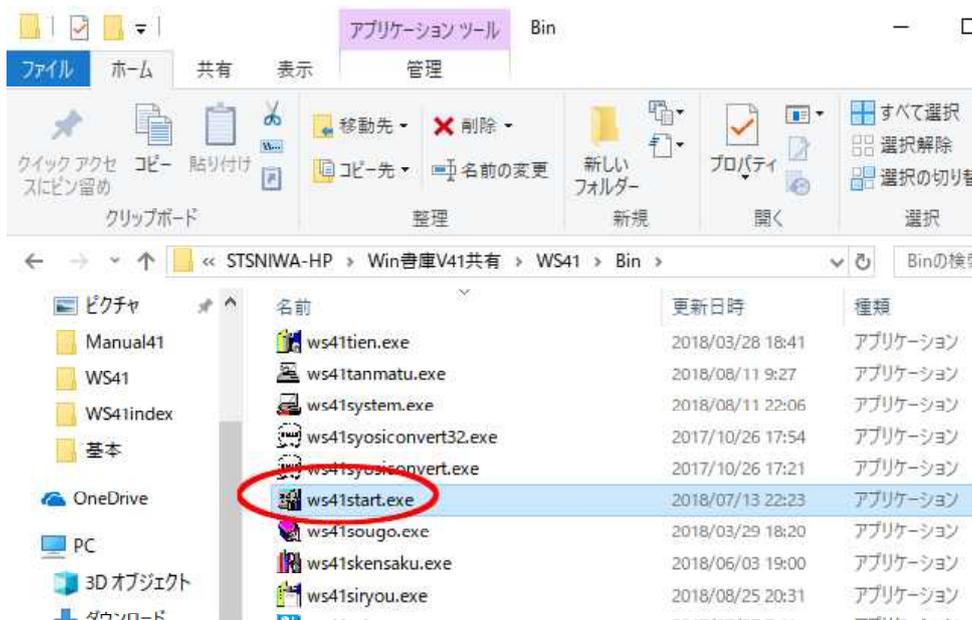
「WS41」をダブルクリックします。

⑤書庫システムフォルダーが表示されます。



「Bin」をダブルクリックします。

⑥Win書庫V4.1のメニューファイル一覧が表示されます。



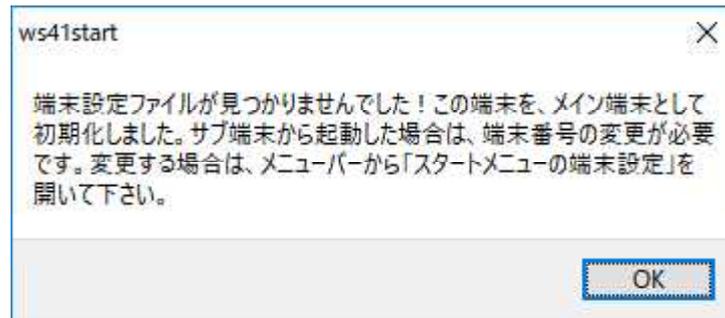
メニューファイル（実行プログラム）の中から、次のファイルを見つけ、



WS41start (WS41start.exe) ※拡張子 exe は非表示の場合があります。

ダブルクリックして実行して下さい。

- ⑦ Win書庫V41が起動しますが、初めての起動の場合は、次のメッセージボックスが表示されます。



初期化された「端末設定」は、「メイン端末」となっていますので、適切な端末番号に設定を変更する必要があります。

<OK> をクリックすると、書庫V4.1のカテゴリーメニューが起動します。



カテゴリーメニューの「システム管理」タブをクリックし、{端末設定} を起動します。

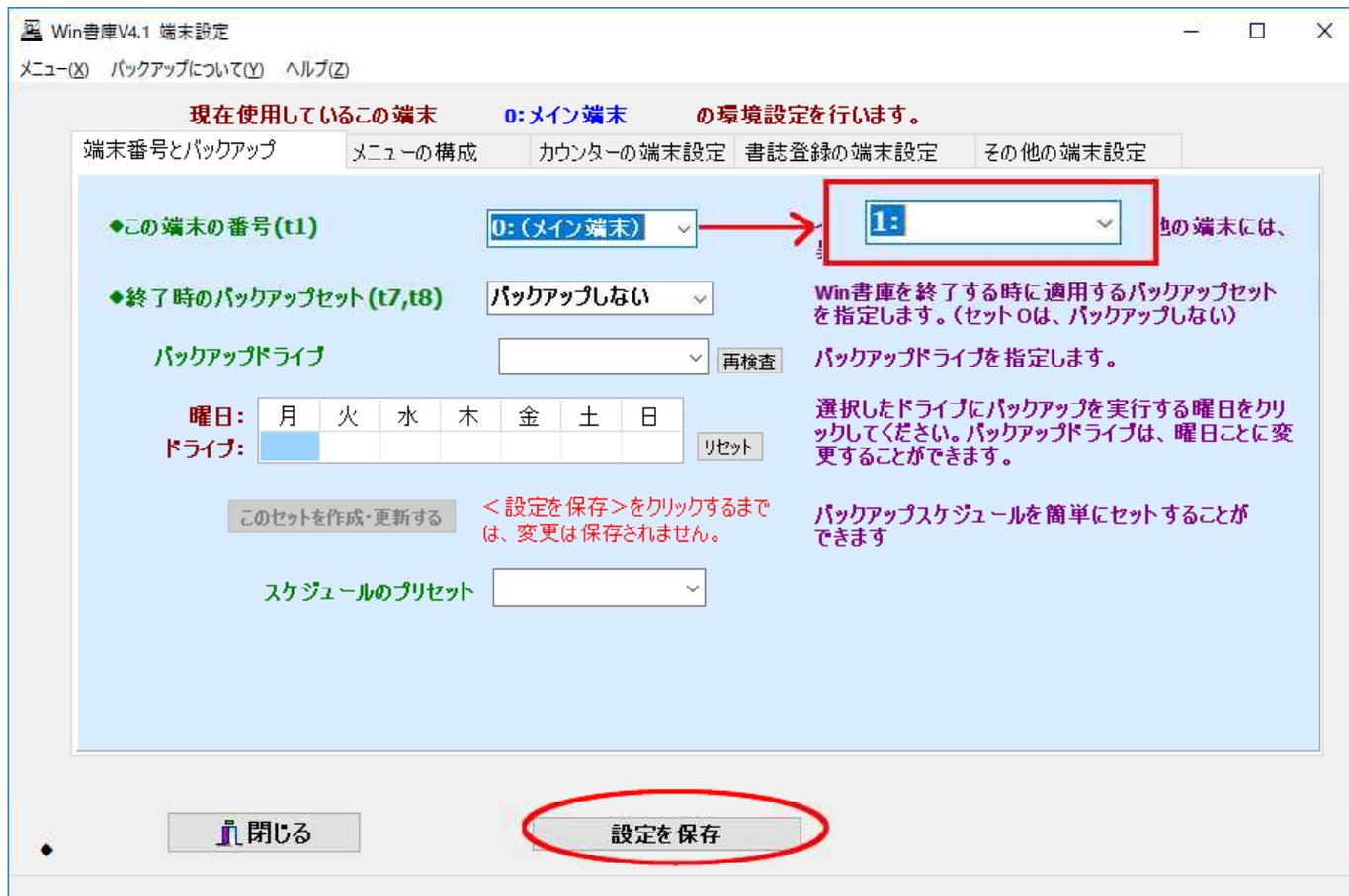
- ※ 最初に、カテゴリーメニューではなく簡単起動メニューが起動した場合は、メニューバー「カテゴリーメニュー」をクリックしてカテゴリーメニューを起動するか、簡単起動メニューに表示される「メニューボタン」から {端末設定} を探して下さい。



## ⑧サブ端末の端末設定

※ 端末設定データは、端末固有のデータなので、その端末のC:ドライブに記録されます。

### {端末設定} メニュー



この端末の番号 (1)                      他の端末と重複しない番号を設定して下さい。

メイン端末は、必ず 0 番 を設定し、一般的に、カウンター端末は 1 番、生徒検索端末は 2 番 以降・・・です。

バックアップなどのその他の項目も、必要に応じて設定して下さい。

<設定を保存> をクリックすると、端末設定は終了です。

以上の操作で、書庫V4の主メニューが表示されます。

### 参考：書庫起動用アイコンについて

通常は、書庫V4.1を最初に起動するタイミングで、起動用のアイコンがデスクトップに張り付きますが、作成されない場合は、主メニュー（カテゴリーメニュー、簡単起動メニュー）上で、メニューバー「ヘルプ」から、「デスクトップに書庫起動アイコンを作成する」をクリックして下さい。



## ◆◆検索端末の設定

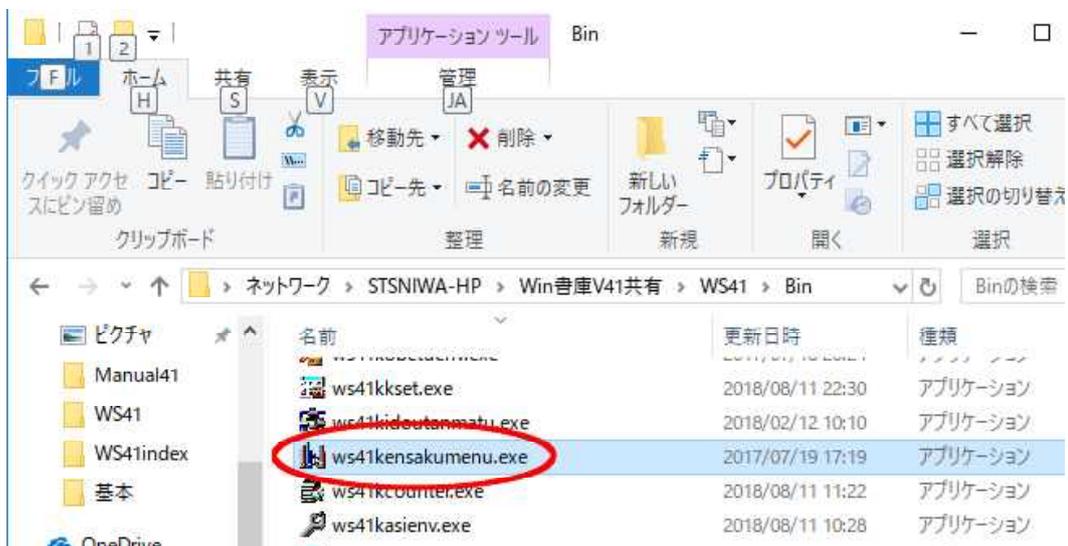
前項目では「カウンター端末」についてのネットワーク起動を説明しましたが、同様に、「検索端末」についても書庫起動の操作を行って下さい。（⑤までの操作は同じ）

「検索端末」は、ユーザーWS41kensaku で起動して設定を行います。このユーザーには、書庫ドライブに対する「読み取り」のみが許可されているため、書庫のほとんどのメニューは正常には実行できません。そのため、「検索端末」用のメニューが準備されていますので、「メインメニュー」ではなく、「検索端末メニュー」を起動して運用します。

### ◇「検索端末専用メニュー」を利用する

これまでの設定で、検索端末からメイン端末の共有リソースにアクセス可能になっているので、簡単に {検索端末メニュー} を起動することができます。

①～⑤までは、前項目と同じ手順で、Win書庫V4.1のメニューファイル一覧を表示させます。

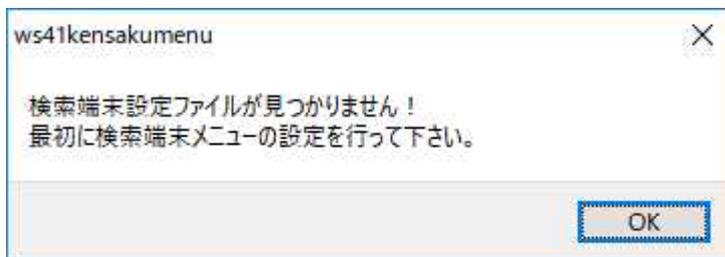


⑥メニューファイル（実行プログラム）の中から、次のファイルを見つけ、



ws41kensakumenu ※拡張子 exe は非表示の場合があります。

ダブルクリックして実行して下さい。



<OK> をクリックすると、「検索端末設定メニュー」がひらきますので、運用方法に合わせて、カスタマイズして下さい。

⑦ {検索端末メニュー} の環境設定 （画面は次ページ）

- A メニュー画面の背景に、任意の画像を表示させることができます。
- B メニュー画面の背景色を指定することができます。  
（Aで画像が設定されている場合は、画像が優先します。）

- C～G メニュー画面に表示されるテキスト文字のフォントを指定することができます。  
 H C～Gのテキストをハイライト表示する時、文字の背景色（ハイライトの色）を指定できます。



メニューボタンの表示： メニュー画面に表示するメニューにチェックを付けて下さい。チェックを付けたメニューだけが表示され、利用できます。



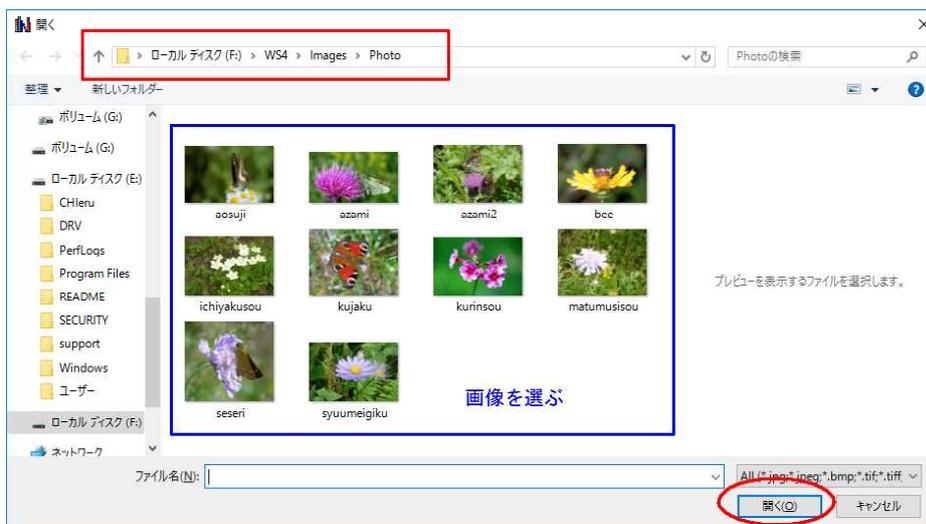
左の画面で分かるように、{検索端末メニュー}の構成は単純で、起動できるメニューも3種類（4メニュー）です。これらのメニューは、書庫共有リソースに、「読み取り」の権限のみがある場合でも利用できます。また、生徒に開放するメニューとしても十分です。

「メニュー画面の右上の隅」（上の図の赤枠の部分）に、マウスカーソルを合わせると、カーソルの形が「時計カーソル」になる部分があります。この位置で、「ダブルクリック」すると、設定パネルが開きます。

※ このメニューを、Windowsの「スタートアップ」に登録しておけば、Windows起動時に自動的に開始させることができます。（後述）

## A 背景画像を指定

<設定> ボタンをクリックすると、「画像を開くダイアログ」が表示されるので、背景に使用するファイルが存在する場所を指定して、対象画像を読み込みます。



参考：書庫をインストールしたドライブの WS41¥Images フォルダー内に、PhotoとShapeというフォルダーがあり、これらのフォルダー内には、写真データや画像データのサンプルがあるのでお使い下さい。

## B・H 背景色の指定

<設定> ボタンをクリックすると、「色の設定ダイアログ」が表示されるので、任意の色を選択して<OK>をクリックします。



### ※色の指定方法

- 1) <色の作成> ボタンをクリック (ダイアログが右に拡張する)
- 2) カラーグラデーションから、使用したい色の部分をクリックする。
- 3) さらに、同色のグラデーションバーから、最適な色をクリックする。
- 4) 選択した色が表示されるので確認する。
- 5) 良ければ<OK> ボタンをクリック

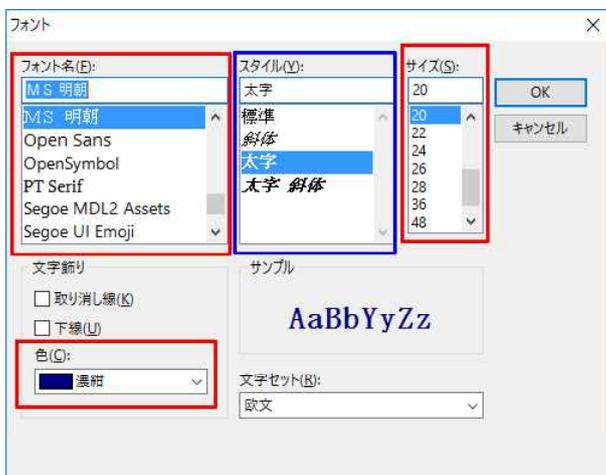
### 知識：コンピュータの色について

コンピュータ画面に表示される色は、色コードで指定します。残念ながら、この色コードは、使用するコンピュータの種類 (OSの種類・WindowsやMAC・Unixなど) により、一部異なっています。Win書庫はWindowsでのみ動作するソフトなので、問題はありますが、マニュアルなどを他のOSを使って、WEB上で見る場合は注意が必要です。

## C～G テキストのフォント指定

<設定> ボタンをクリックすると、「フォントダイアログ」が表示されるので、「フォント名」「色」「サイズ (ポイント数)」の3項目のみを指定して下さい。

※ その他の項目は、設定を保存することはできません。



**フォント名:** 縦書き文字は使用できません。必ずサンプル表示を確認して下さい。

サンプルに日本語が表示されない場合は、「文字セット」を「日本語」に変更して下さい。

**サイズ:** 指定サイズが大き過ぎると、他のテキストと表示が重なる場合があります。

**色:** 画像や背景色と干渉して、読みづらくなる場合は、最初の設定パネルの I で、<透過> ボタンをクリックして、テキストをハイライト表示に変更して下さい。

- ⑨ {検索端末起動メニュー} を最初に起動すると、デスクトップに起動用ショートカットが作成されます。



{検索端末メニュー} は、他のメニューを起動する為のランチャーです。検索端末メニューから他のメニューを起動している間は、タスクバーに最小化してとどまります。起動したメニューが終了すると、自動的に通常ウィンドウに戻って表示されますが、Windowsの状態によっては、最小化のままの場合があります。このときは、タスクバーのアイコンをクリックして、通常ウィンドウ表示にして下さい。

- ◇ {検索端末メニュー} をスタートアップに登録して自動起動させる

上記手順の⑨で作成された「起動用ショートカット」を、「Windowsのスタートアップフォルダー」にコピーするだけで、自動起動します。

スタートアップフォルダーの場所は、次のとおりです。※下線部の表示はカナ

C:\¥Users¥ [ユーザー名]¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥Windows¥  
ユーザー Start Menu¥Programs¥Startup  
 スタートメニュー プログラム スタートアップ

上記パスの一部は、「隠しフォルダー」に設定されているので、フォルダー属性を変更する必要があります。

- ① Windows10, 8 「コンピュータ (PC)」を開きます。
- ② ウィンドウの上部タブの [表示] をクリックし、開いたオプションバーの「隠しファイル」にチェックを入れます。



- ③ ドライブ一覧から C: ドライブを開きます。
- ④ ユーザー (Users) フォルダを開きます。
- ⑤ Windowsを起動したユーザーフォルダを開きます。(WS4counter など)
- ⑥ AppData フォルダを開きます。
- ⑦ Roaming フォルダを開きます。
- ⑧ Microsoft フォルダを開きます。
- ⑨ Winsows フォルダを開きます。
- ⑩ スタートメニュー (Start Menu) フォルダを開きます。
- ⑪ プログラム (Programs) フォルダを開きます。
- ⑫ スタートアップ (Startup) フォルダを開きます。
- ⑬ デスクトップに作成された「{検索端末メニュー} の起動用ショートカット」をコピーし、スタートアップフォルダに貼り付けます。

以上で、次回起動時には、{検索端末メニュー} が自動起動します。

自動起動を中止する場合は、上記ショートカットを削除して下さい。